

A : 100 ≤ 目標達成
B : 80 ≤ ほぼ達成 < 100
C : 60 ≤ もう少し < 80
D : できていない < 60

学校教育目標		自分や周りを大切にし、元気な未来を作る子どもの育成 ～「自尊」と「他尊」の精神で、「未来」の担い手を～				経営理念 ミッション・ビジョン		① 主体的な学び、協働的な学び、課題発見・解決学習を創造・実現する教師・学校<学びの変革> ② 子どもの力を磨き、教育的愛情をもって一人一人を大切にしている教師・学校<指導力> ③ “チーム熊四小”の一員として組織的・協働的に取り組む教師・学校<組織力・PDCA> ④ 未来の担い手を育てているという自覚と責任と誇りのある教師・学校<職員・使命感>				自己評価		学校関係者評価			n改善策	
評価計画(4月末提出)						自己評価						学校関係者評価			n改善策			
c 中期経営 目標 (3年後を)	d 短期経営 目標 (今年度)	e 目標達成のための 方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	h 達成値	中間		最終		k 結果と課題の説明 (短期経営目標についての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コ メ	11月	2月	
					11月	2月	i=h/g 達成度	評価 A～D 4段階 評価	i=h/g 達成度	評価 A～D 4段階 評価		イ 適正	ロ 不適正	ハ 分から ない				
(1) 自己実現 の基礎と なる確かな 学力を つける (確かな 学力)	基礎・基本の徹底と、コンピテンシーの育成を目指した授業改善により、児童の学力を向上させるとともに、課題発見・解決力を伸ばす。	児童の課題を把握したうえで、個に応じた問題や家庭学習を用意し、かがやきタイムや家庭学習を充実させる。	学期末テストにおいて対目標値1.07以上の児童の割合	80%	算数科 65.4%	算数科 52.3%	81.7%	B	65.4%	C	○算数科における2学期末テストの結果は、対目標値1.07以上の児童の割合が52.3%で、目標値(②)を下回り、1学期の65.4%よりも低くなっている。 ○授業で学習したときや、かがやきタイムで問題を解いたときにはある程度できていたが、単元末テストや学期末テストのときには、忘れていた児童が多い。定着するための方策(町で導入しているデジタル教材の積極的活用など)をとる必要がある。					○学習内容を確実に定着させるために、単元学習終了後も繰り返し練習問題に取り組みさせる。 ○昼の帯学習として実施していたかがやきタイムを放課後に行い、担任が通過率の低い児童に個別指導ができるようにする	○学年末に向けて、その学年で定着していない内容の練習問題を、かがやきタイムや授業後に行う。その成果を学年末テストで確認する。 ○忘れやすい内容については、ある程度の期間において繰り返す。	
			算数科と総合的な学習の時間において、「課題発見・解決学習」を位置づけた授業実践を計画的に行う。	課題発見・解決学習(課題設定、実行)に関する児童アンケートでの肯定的回答の割合	85%	算数科 74.8% 総合 69.2%	算数科 77.6% 総合 71.3%	算数科 88.0% 総合 81.4%	B	算数科 91.3% 総合 83.9%	B	(児童5月→1月) 【算数科・5項目平均】 75.3%→77.6% 【総合的な～・15項目平均】 62.9%→71.3% ○算数で「問題解決のために予想している」児童は、84.0%(5月77.8%)で、「学んだことを生活の中で使っている」児童は、82.1%(5月78.1%)であった。 ○総合で、「問題解決のために進んで資料収集・取材をする」児童は57.4%(5月41.9%)で、「調べたこと等を図、グラフ、表などにまとめている」児童は74.7%(5月50.4%)であった。 ○算数科では、予想や生活に生かすなど重点的に取り組んだ「課題発見・解決学習」の成果が見られるもの、根拠を示しながら絵や図でわかりやすく説明する力がやや弱いことが考えられる。 ○総合的な学習の時間では、資料収集や図、グラフ、表などにまとめることに関して、学校全体で取り組んだ「統計教育」の成果が見られる。				○算数では、問題解決学習で、集めた情報を整理・分析する学習活動を積極的に取り入れる。根拠を明らかにして説明する学習経験を重ねる。そのときに、絵や図に表して考え、相手や目的を意識して説明する活動を増やす。 ○総合では、資料収集・取材をし、情報比較・分類・整理をして考え、調べたことを相手や目的を意識しながら図、グラフ、表などにまとめる学習活動を重ねる。	○算数科では、絵や図を使って問題解決の過程を説明するような場面を増やし、児童の説明力を高めよう。 ○総合では、学習のねらいやゴールイメージを明確にし、課題設定から課題解決までを児童自らが考え活動できるような単元構成や手立てを設定できるようにする。	
(2) ルールを守り、 自己を大切に する児童の育成 (豊かな心)	規範意識、自他の尊重に関する児童の意識を高める。	がん熊スキルの「整える」ことを中心に指導的・確かな評言していく。また全校生活目標にも位置付ける。 ○靴そろえ ○PPG ○無言掃除 等	児童アンケートにおける肯定的回答の割合	90%	児童 76.7%	児童 74.4%	児童 85.2%	B	児童 82.7%	B	(児童5月→1月)・(職員5月→1月) 【無言移動】 67.5%→72.2%・35.5%→67.7% 【無言掃除】 67.8%→69.0%・19.4%→51.6% 【あいさつ】 78.7%→69.2%・22.6%→51.6% 【PPG】 61.3%→60.4%・33.3%→83.3% 【四秒礼】 88.4%→89.2%・70.7%→93.3% 【靴揃え】 85.1%→86.4%・86.7%→100.0% 【全平均】 74.8%→74.4%・44.6%→74.6% ○児童結果から、レベル5の挨拶が70%程度で課題がある。 ○職員結果から、無言掃除・レベル5の挨拶が50%程度で課題がある。 ○PPGは、職員が意識して声掛けをしたが、児童の意識定着に課題がある。 ○無言掃除については、本年度から縦割りでなく同一学年での活動のため、必要な指導や児童同士の声掛けなど発達段階差があるが、職員が段階に沿った指導を心掛けた。 ○挨拶に関しては、職員がレベル5の挨拶を児童に十分伝えられていない。				○PPGを職員が意識して声掛けをするように、毎月第一週を強化週間とする。PPGに対する意識が低い児童に対し、意識的に肯定的評価を行う。 ○あいさつに関しては、児童の自発的な挨拶運動を2月の第1週目に取り組む。	○熊野町の「当たり前」を職員が意識して声掛けをするように、毎月第一週を強化週間とする。意識が低い児童に対し、意識的に肯定的評価を行う。 ○無言移動・無言掃除については、意義を児童に周知していく。		
			全校・学級・個別の全てにおいて一貫した指導と評価(評言)を継続し、「自尊」「他尊」「未来」に関する価値付けを高めていく。	「自尊」「他尊」「未来」に関する児童アンケートの肯定的回答の割合	90%	81.0%	81.7%	90.0%	B	90.8%	B	(児童5月→1月) 【自尊】 74.2%→71.6% 【他尊】 83.5%→86.6% 【未来】 84.1%→84.4% 【平均】 81.0%→81.7% ○自尊が71.6%と低い。 ○第6学年「自分にはよいところがある」59%と低く、「自分のよさは、認められている」第3学年55%・第6学年44%と低い。				○グループ体験学習を継続的に取り入れ、コミュニケーションと人間関係づくりを図る。 ○計画的に懇談会で「親の力を学び合う学習プログラム」等を取り入れ、親自身の自尊感情も高める。 ○「いじめ撲滅キャンペーン」の取組を継続し、いじめ撲滅に対する自身の考えの変化・進化をキャリアノートに綴っていく。		
(3) 主体的に 体を鍛える 児童の育成 (たくまやかな体)	新体力テストの課題である握力を高めることで、運動能力・体力の向上につながる基礎を培う。	毎朝、握力を高めるためのストレッチ体操を導入する。 体育科の準備運動に鉄棒や雲梯、登り棒を積極的に取り入れる。 清掃活動における雑巾絞りも握力向上の一助として指導を行う。 「生活チェック」を学期に1回実施し、規則正しい生活の意識付けを行う。	握力計の測定による握力の数値が全国平均以上の児童の割合	60%以上	握力 46.7%	握力 64.2%	77.8%	C	107%	A	(児童5月→11月→1月) 【握力】 30.1%→46.7%→64.2% ○年度当初と比べて全国平均値以上の児童の割合が約2倍(+34.1%)向上し、目標値の107%を達成した。 ○特に3年生において著しい伸び(33.8%→61.4%)が見られ、全体の数値の底上げにつながった。 ○前回の結果と分析から明らかになった握力の2極化について、改善が見られた学年はあったが、課題の解決に至っていない(微増)学年もあった。(2年男子15.3%→23.0%)				○動きを見直すために一時中断している握力UP体操を、新たに改善を加えたもので3学期から再開する。 ○2月に第3回目の握力測定を実施し、11月の記録と比較・検証を行う。 ○校舎内に握力測定コーナーを設置し、いつでも自分で握力が測定できる場をつくる。	○握力を向上させる朝のストレッチ体操を継続して取り組む。 ○握力に対する関心や意欲を持たせるための握力測定コーナーを引き続き設置する。 ○来年度に向けて体育の準備運動などで握力を高める運動を取り入れる。		